
Infinite Stratos 00

キラー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Infinite Stratos 00

【Zコード】

N4913Z

【作者名】

キラー

【あらすじ】

突然起こってしまった首都直下地震によって『彼』は死んでしまつた。

だが、それでも生きていたかった。どんなに醜くとも、死ぬのがイヤだった。まだ何も成し遂げていないのに、死ぬのは……！

その思いに神が応えてくれたのか、『彼』は2度目の人生を生きることになった。……『インフィニット・ストラatos』の世界で、主人公・織斑一夏として。

そして、織斑一夏となつた『彼』はとある天才科学者と同じ理由で他人を嫌つてゐる少女、篠ノ之束が発案した計画に参加することになつた。
……人類を、変革へ導くための。

〇〇・プロローグ（前書き）

この小説は、先ほど間違えて短編小説として投稿してしまった同名小説を連載小説として再投稿したもののです。先ほどは間違えて投稿してしまい、すいませんでした。

……今日は何か嫌な予感がする。

そんなアホなことを感じながら俺は都市部にある大型の本屋に行く。え、俺の名前？ ただのしがない高校2年生だ。でもちゃんと名前はある。趣味はネットサーフィン、ゲーム、ラノベを読むこと、好きなアニメはたくさんあるが、ガンダムシリーズが好き。特に00シリーズ。好きなキャラは刹那・F・セイエイ。得意な科目は社会だ。ちなみに社会の中でも歴史が一番得意。

別に買うものは特に無かつたけど、友達に進められたラノベ、『IS・インフィニット・ストラトス』の1巻をラノベの販売エリアで見かけた。

友達からの評価は、『とにかくヒロインが可愛い……』……だそ
うだ。何の参考にもならない……。

それでも読んでから読み続けるかを決めるか。

そう思つた俺は特設売り場が形成されているところからISの1巻を手に取り、レジに向かわなかつた。その前にゲームの攻略本を見ていくことにしたんだ。なお、漫画は先週買ったばかりだつたから見ないことにした。

ざつと見て、特に欲しいものはなし。ゲームの攻略本はネットのwikiがあるから買わなくても問題は無いしな。

「そんじゃ、レジに行くか」

なんとなく呟いてみた。ビリせまた来れるしそろそろお暇するか。
そう思つていたから。

けど、もう1回の日常に戻れないなんてこのときは思つていなかつ
た。

本屋を出て数分、俺はエスの1巻を歩きながら読んでいた。これが意外と面白く、帰つたらエスのアニメを某サイトで見るかとも思えた。それくらい俺には面白く思えたんだ。

そんなときだった。

地面が小刻みに揺れ始めた 地震だ！ それも、揺れ方がどんどん大きくなつてきている。……もしかして、ニュースでやつていた首都直下地震が起つてているのか！？ けど、前の震災で東京が揺れたときよりも、少し大きく揺れている感じがする。……それでも震度は7～8度だろうな。

周囲は騒ぎも同然、パニック状態になつている。

「嫌な予感、つてこれのことだったのか……！」

後悔したけど、もう遅い。俺はとにかく自分のできる」とを考えようとした。そのとき、上のほうで、ギシリ、と何かが鈍く動く音がした。

上を見てみると、未完成のビルの鉄骨 おそらく、最小の物だらう が地震の影響で揺れて、こつちまで落ちてきている！ 周囲もすぐに気がついて、もつ離れている。

だが、俺は逃げ遅れた。

だつて、逃げよつと思つたときには鉄骨がいくつもすぐ近くまで落ちていていたから……。

いつして、俺は死に絶えよつとしていた。体中に走る激しい痛みとともに。

そして、死ぬ前に思つたこと。

俺はまだ、生きていきたい！！

生きることへの、渴望だけだった。

真つ暗な世界に俺はいた。

それに気がついたが、そんなことはどうでもよかつた。もう死ぬんだろう。……だからこの世界に俺の身を委ねよう。

俺が望んだことは何だつた？

ふいに、そんなことが俺の脳裏に過ぎつた。

……そうだ。俺が望んだこと。

俺はまだ生きていきたい！！

まだ、俺は死にたくないんだ……！

俺の望みが叶つたのか、漆黒の闇に覆われていた世界に光が灯つた。やがてその光は闇を全て消し去り、俺を生に導いた。

そして、俺の目に映つたのは、どこにでもありそうな町の景色だった。

……どうも身体が小さいような気がした俺は視線を下にやる。見えたものは、毛布に包まつっていた肌が少し浅黒い赤ん坊の身体どうやら俺は、赤ん坊になつたらしい……。

それにも喋り方も若干おかしいような……まあいい。

で、わかる状況は1つ。……俺は生みの親に捨てられたようだ。

捨て子に転生 憑依か？ した俺はどうやって生きていけばいいんだ？ 確かに生きることは望んだが、こんな状況にしようと頼んでないぞ。

しかも、今は雨が降つていて、とても寒い。赤ん坊のこの身体じゃ凍死する可能性がある……！

と、そのとき俺の田の前をビニール傘を持つて歩いていた黒髪の少女と俺の視線が交わる。……ん？　あの少女、どこかで見た気が……。

そんなときに、彼女は俺に近づいてきた。

「どうしたの？　何でこんなところなの？」

黒髪の少女は俺に微笑みながら聞いてきた。親に捨てられたらしいに、そう言いかつたけど今は赤ん坊の身体だから喋れない。ナニに、黒髪の少女の友達と思われる少女も傘をさしてやつてくれる。

「ちーちゃんどうしたの？」

「あ、束。この子、捨てられたみたいなんだ。かわいそうで……」

「ならお父さんに相談してこの赤ちゃんを引き取る？」

「やつしょりよー。この子、なんだか両親に捨てられたときの私みたいで……見てられなかつたんだ」

……この子も、両親に捨てられたのか。俺も生前は両親に捨てられて、それでも必死に生きてきた。でも、俺は誰にも助けてもらえなかつたけど、この子は束つて子の両親に助けてもらつたみたいだな。

すると、黒髪の少女が俺を抱き上げて、

「じゃあ行こうよ束！」

「はーい。それでこの子の名前はどうするの？　名前無いみたいだからつけてあげないと」

「そうだなあ……じゃあ、一夏つてこの子の名前はどうかな？」

「ちーちゃんのつけた名前なら何でも良いよ。よしこへな、いっくんー！」

「じゃあ決まり！きみの名前は一夏、織斑一夏だよ。よろしくね。私の名前は織斑千冬。こつちは篠ノ之束！」

自己紹介をしながら黒髪の少女、千冬は俺に笑いかけてきた。
そこで俺は気づいた。織斑千冬と篠ノ之束はISの登場人物……
そして一夏、というのは主人公の名前だったはずだ。……もしかして俺は、織斑一夏に転生したのか！？

……こうして、織斑一夏の新たな人生はスタートした。

〇〇・プロローグ（後書き）

誤字脱字、おかしいところがあれば報告をお願いします。それと、よければ感想を下さると作者は嬉しいです。

別のコーナーで投稿している遊戯王の小説は、内容の構成が思つたよりも難しくなつてしまい、早くてもクリスマス前後に投稿することになります。ご了承ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4913z/>

Infinite Stratos 00

2011年12月16日19時39分発行